

Sultamicillin の臨床使用経験

深谷 一太

横浜通信病院内科

新抗生剤 Sultamicillin の臨床使用を、4 例の慢性気管支炎の急性増悪時と、2 例の扁桃炎の計 6 例に対して行った。5 例に有効であり、1 例は判定不能であった。起炎菌としては、インフルエンザ菌 3 例、化膿レンサ球菌と黄色ブドウ球菌の両者を 1 例に分離したが、すべて除菌された。扁桃炎の 1 例では、副作用として下痢がみられ、投与を中止した。外に、好酸球の増加が 1 例にみられた。

Ampicillin (ABPC) と Sulbactam (SBT) の相互エステル体である Sultamicillin が米国ファイザー社で開発され、わが国で治験が開始された。私も 6 例に使用したので、その成績を報告する。

I. 臨床成績

4 例の慢性気管支炎の急性増悪時と、2 例の扁桃炎に対して用いた。その成績は Table 1 のようである。5 例は 1 回 2 錠 1 日 2 回、2 ～ 15 日間投与し、1 例は 1 回 1 錠 1 日 3 回、7 日間投与した。

臨床効果は 5 例に有効で、1 例は使用回数不足のため判定不能であった。

起炎菌としては、慢性気管支炎の急性増悪の 4 例中 3 例の喀痰からインフルエンザ菌を分離し、扁桃炎の 1 例では A 群溶血性化膿レンサ球菌(+++), 黄色ブドウ球菌(+)を咽頭粘液から分離した。これら 4 例すべてにおいて菌消失をみた。

扁桃炎の 1 例では、本剤 2 錠を 3 回服用したところで、3 回の下痢を来し、患者が服薬を中止したので、臨床効果判定不能としたが、翌日入院した際、扁桃局所の発赤、白苔は消退し、疼痛も収まり、下熱しており、白血球数も 15400 から 4900 と正常化し、CRP 5+ から 3+ と好転していた。ただし、その後無治療で経過観察中、3 日後に発熱は起こらなかったが、扁桃発赤、白苔が再びみられ、咽頭痛も出現し再燃と考えられた。CEX を投与したが、患者はその後受診しなかった。この例では原因菌を決めることはできなかった。

検査値の経過について、Table 2 に示す。1 例において好酸球が 3 → 8% と極く軽度の増加をみとめた。

II. 考察

ABPC と SBT を相互にエステル結合させた本剤は、

プロドラッグとして 1 つの物質であり、合剤ということとはできない。しかし、腸粘膜にふれて吸収され、エステル結合が切れ、ABPC と SBT とに分れて門脈内に入り、一定の比率で相互に量的に変動しつつ、各々が薬効を発揮する点は、AMPC と CVA との合剤である BRL25000 を服用したときと類似の薬理作用を期待するということになる。

従来、ABPC のエステル誘導体は、消化管からの吸収を良好にするため、いくつかの薬剤が登場したが、多くは特別副作用の発現頻度の増加もなく、上市されている。しかし、PVPC では消化器障害の発現頻度がやや高率であったためか、認可されなかったいきさつがある。

本剤の消化器障害発現率は、私の小経験では 6 例中 1 例 (16.7%) であった。研究会でもある程度の症例が集積されたり。最近では、新治験抗生剤において、注射剤でも下痢の発現頻度が増加傾向にあり、抗菌力の強化と関連しているものかも知れない。

本剤はすぐれた発想から開発され、本剤の実地臨床への登場は、ABPC の失われかけた抗菌力をとり戻し、さらに増強することとなり、その利益するところは大きいといえよう。

ABPC と SBT との体内での濃度比は変動しながら推移するわけであるが、両者の協力作用は広範囲の比率巾において、同じように認められるとされている。Sultamicillin は一物質として優れたものということができよう。

文 献

- 1) 新薬シンポジウム Sultamicillin, 第 32 回日本化学療法学会 札幌, 1984

CLINICAL EXPERIENCES WITH SULTAMICILLIN

KAZUFUTO FUKAYA

Department of Internal Medicine

Yokohama Teishin Hospital

A new antibiotic, sultamicillin, was administered to six patients of whom 4 were with acute exacerbation of chronic bronchitis and 2 with acute tonsillitis.

Five cases responded well, and the evaluation was impossible in one. As causative organisms, 3 strains of *H. influenzae* and a mixed culture of *S. pyogenes* and *S. aureus* was obtained from one case.

At all 4 cases, these organisms were eradicated.

In one patient with tonsillitis, diarrhea occurred and the administration was stopped. Another case showed the increase of eosinophils.